

五年戊辰、難波宮に幸す時に作る歌四首

九五〇番

大君の境ひたまふと 山守置き 守るといふ山  
に 入らずは止まじ

九五一番

見渡せば 近きものから 岩隠り かがよふ玉を  
取らずは止まじ

九五二番

韓衣 着奈良の里の 妻まつに 玉をし付けむ  
よき人もがも

九五三番

さ雄鹿の 鳴くなる山を 越え行かむ 日だにや  
君が はた逢はざらむ